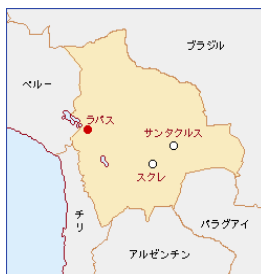




ボリビア多民族国 (Plurinational State of Bolivia)



- ボリビアへの援助総額は2014年度までの累計で約2,120億円。
- ボリビアは南米の最貧国であることを踏まえ、貧困削減を通じた持続的な経済成長の実現に向けた支援を基本方針とする。特に、電力、道路を中心としたインフラの整備を推進。
- 貧困削減に向けた教育の質の改善、また、水と衛生の向上や母子保健の改善を中心とした社会開発を支援。

国概要

(基礎データ)

- ・ 面積: 110万平方キロメートル(日本の約3倍)
- ・ 人口: 1,072.5万人(2015年, 世銀)
- ・ 首都: ラパス(憲法上の首都はスクレ)
- ・ 民族: 先住民41%, 非先住民59%
- ・ 言語: スペイン語及びケチュア語、アイマラ語を中心に先住民言語36言語
- ・ 宗教: 国民の大多数(95%以上)はカトリック教
- ・ 政体: 立憲共和制
- ・ 議会: 二院制(上院36名, 下院130名)
- ・ GDP: 331億米ドル(2015年, 世銀)
- ・ GNI: 一人あたり 3,080米ドル(2015年, 世銀)
- ・ 経済成長率: 4.0%(2015年, 世銀)
- ・ 失業率: 4.0%(2013年, IMF)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

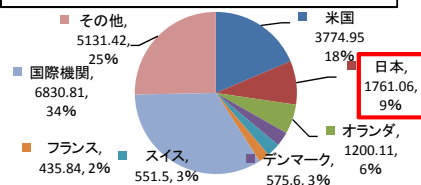
1825年	スペインより独立
1964年-	軍事政権
1982年	シーレス・スアソ大統領(民政移管)
1985年	パス・エステンソロ大統領
1997年	バンセル大統領
2002年	サンチェス・デ・ロサダ大統領
2003年	メサ大統領
2005年	ロドリゲス大統領
2006年1月-現在	モラレス大統領

援助実績(E/Nベース)

スキーム	額(累計)／人数(延べ)
円借款	495.21億円 (2014年までの累計)
無償資金協力	913.35億円 (2014年までの累計)
技術協力	712.38億円 (2014年までの累計)
青年海外協力隊	延べ924人 (2016年6月時点で43人)
シニア海外ボランティア	延べ97人 (2016年6月時点で9人)
日系社会青年ボランティア	延べ98人 (2016年6月時点で1人)
日系社会シニアボランティア	延べ48人 (2016年6月時点で1人)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注) 青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

ボリビアへの主要ODA供与国 (1961年～2014年累積, 出典: OECD/DAC) (単位: 百万ドル, 支出総額ベース)



経済関係

スキーム	金額／人数(直近年)
日本からボリビアへの輸出	257.0億円 (2015年, 財務省)
ボリビアから日本への輸出	271.0億円 (2015年, 財務省)
在ボリビア日系企業数	51社 (2015年, 外務省)

人的つながり

項目	人数(直近年)
ボリビアにおける在留邦人数	2,970人 (2015年, 外務省)
在日ボリビア人数	5,469人 (2015年, 法務省)
ボリビアから日本への留学生数	27名 (2015年, JASSO)

日本とボリビア多民族国との協力年表

年代	案件
1914年	日本とボリビアの外交関係樹立
1953年	オキナワ移住地への入植開始
1954年	サンファン移住地への入植開始
1956年	移住協定締結
1960年	研修員受け入れ開始(これまでに2,300人以上の専門家や青年海外協力隊を派遣)
1975年	円借款:「道路建設事業計画」(36.80億円)(ボリビアへの初の円借款)
1977年	青年海外協力隊派遣取極
1977年	無償資金協力「ラパス消化器疾患研究センター建設計画」(ボリビアへの初の無償資金協力)
1978年	技術協力協定締結
1978年	円借款:「ビルビル国際空港建設計画」(108億円)(サンタクルス市の空の玄関口を整備)
1983年	無償資金協力:「サンタクルス総合病院建設計画」(42億円)
2005年	無償資金協力:「日本・ボリビア友好橋改修計画(本体部分)」(3.51億円)
2010年	エボ・モラレス大統領訪日(公式実務訪問賓客)
2010年	地デジ日本方式の採用決定
2014年	外交関係樹立100周年(石原外務大臣政務官出席のもと記念式典を実施したほか、多くの文化事業を実施)
2014年	円借款:「ラグナ・コロラダ地熱発電所建設計画(第一段階第一期)」(78年以降初めてのプロジェクト円借款)
2015年	ウユニ塩湖への関心増大により、ボリビアを来訪する邦人観光客が17,000人を超える

2014年には外交関係樹立100周年を迎えた。



2014年に外交関係樹立100周年

ボリビアでは、地形上の理由による道路整備の遅れが経済発展の障害となっており、日本は特に老朽化が進んでいたラパス～コチャバンバ～サンタクルスを結ぶ橋梁の改修を支援。改修後、この橋は「日本・ボリビア友好橋」と呼ばれ、1日の通行車両数は4,101台(2004年)から6,309台(2009年)以上へと増大し、同橋を含む道路沿線の貨物・旅客輸送の活発化と、それに伴う地域経済の発展に寄与した。



ラグナ・コロラダ発電所周辺



ウユニ塩湖

大規模な発電所が存在しないポトン県において、地熱発電所の建設などを支援するもの。これにより、同国の電力需要の増加への対応と電力供給の安定化を図り、経済発展および再生可能エネルギー開発を促進し、気候変動の緩和に寄与。